

臨床薬理学

責任者・コーディネーター	薬理学講座情報伝達医学分野 平 英一 教授		
担当講座・学科(分野)	薬理学講座情報伝達医学分野、衛生学公衆衛生学講座、薬学部臨床薬剤学講座		
担当教員	入江 康至 准教授、古濱 和久 非常勤講師、樋口 宗史 非常勤講師、近藤 ゆき子 助教、小栗 重統 非常勤講師、工藤 賢三 准教授		
対象学年	4	区分・時間数	講義 18 時間
期間	後期		

・学習方針（講義概要等）

薬物治療は現代医療の中で中心的な役割を占めている。治療に有効な薬物を開発し、患者により安全で有効な治療薬を選択するための学問が臨床薬理学である。臨床薬理学は、臨床薬物動態の検討、薬物の開発と臨床治験、そして個人に適した有効治療の確立などがあり、臨床薬物治療学に科学的さらには倫理的側面からもアプローチする学問である。また、臨床薬理学に加え、現在臨床現場で用いられている漢方薬は、長年の経験と知識から漢方医学で確立された治療薬である。

・一般目標（GIO）

医師として薬物治療、薬物開発、臨床治験に参加する際の基本的知識を習得する。また、薬物動態の個人差を理解し、各個人向け治療を実践できる知識を習得する。さらに、漢方薬について分類、処方について理解し、治療に必要な知識を習得する。

・到達目標（SB0）

- 1 薬物治療の際の科学的根拠と、倫理、法律を説明できる。
- 2 薬物の処方について説明できる。
- 3 薬物の毒性について説明できる。
- 4 薬物の開発について説明できる。
- 5 薬物に対する反応の個人差について説明できる。
- 6 臨床的な薬物動態について説明できる。
- 7 薬物間の相互作用について説明できる。
- 8 漢方薬について説明できる。

・講義日程

(矢) 西 104 1-D 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
10/15	月	1	情報伝達医学分野	入江 康至 准教授	臨床薬理学総論。臨床薬理学の総論を、EBM(Evidence Based Medicine)、服薬コンプライアンスなどを中心に学ぶ。
10/15	月	2	情報伝達医学分野	樋口 宗史 非常勤講師	薬理学特別講義；摂食行動と薬物治療の基礎研究
10/18	木	1	情報伝達医学分野	古濱 和久 非常勤講師	医薬品毒性学。医薬品には必ず毒性と副作用がある。毒性学の総論を理解し、特に医薬品の毒性について理解を深める。
10/18	木	2	薬学部臨床薬剤学講座	工藤 賢三 准教授	薬物開発、臨床治験。新薬が開発されるまでの過程と、医薬品のヒトにおける有効性・安全性を確保するための試験について学ぶ。
10/22	月	1	情報伝達医学分野	入江 康至 准教授	遺伝薬理学、個人差。薬理作用の個人差と薬物投与設計について、遺伝薬理学、年齢（小児期、老年期）・妊娠や病態（肝障害・腎障害）に合わせた投与設計を中心に学ぶ。
10/22	月	2	薬学部臨床薬剤学講座	工藤 賢三 准教授	臨床薬物動態、代謝。的確な薬物療法を実施するための基礎として、薬物の生体内での動き（吸収・分布・代謝・排泄）について学ぶ。
11/1	木	1	情報伝達医学分野	近藤 ゆき子 助教	薬物相互作用。薬物間の相互作用は服薬の際の大きな注意点の一つである。薬物間の相互作用の総論に加え、個別例についても学ぶ。
11/1	木	2	情報伝達医学分野	平 英一 教授	処方。薬物を投与するには処方箋が必要である。薬物を処方する際の処方箋の書き方を、剤形別に基本的事項を学ぶ。

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
11/26	月	3	衛生学公衆 衛生学講座	小栗 重統 非常勤講師	東洋医学の役割は西洋医学を補完することにある。それは言葉として理解できるものの、実感し難いことも事実である。その一方で近年漢方医学は徐々にEBMが確立されつつあり、医療の現場に取り込まれてきている。そこで本講座では、漢方、鍼灸医学が実際に臨床の現場でどのように必要に迫られ、活用されていくのかを解説する。
11/26	月	4	衛生学公衆 衛生学講座	小栗 重統 非常勤講師	東洋医学における身体観は西洋医学のそれと異なる部分が比較的多い。本講座では漢方医学における特徴的な診察方法、治療方針決定までの流れを習得することを目標とする。
11/27	火	1	衛生学公衆 衛生学講座	小栗 重統 非常勤講師	東洋医学の診断は患者の訴えに耳を傾け、観て、触ることが大変重要である。その理由は得られた情報のほぼ全て漢方用語に置き換えられ治療へのプロセスへと結びついていくからである。本講座では漢方医学の診察から診断に焦点を当てて解説する。
11/27	火	2	衛生学公衆 衛生学講座	小栗 重統 非常勤講師	漢方医学において疾患を診断しそれに基づき漢方薬を処方できる者は、医師はもちろん実は一般漢方医でも多くはない。それは漢方理論の独特の成り立ちに原因がある。本講座では漢方理論の成り立ちと、その中でも戦略的な漢方治療法について概説する。

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	臨床薬理学テキスト 改訂2版	植松俊彦、岩本喜久生 編	南江堂	2001
教	専門医のための漢方医学テキスト	日本東洋医学会学術教育委員会 編	南江堂	2010
参	ローレンス臨床薬理学（原著9版）	P. N. Bennett 他著、飯島俊彦 他訳	西村書店	2006
参	臨床薬物動態学：臨床薬理学・薬物療法の基礎として 改訂4版	加藤隆一 著	南江堂	2009
参	薬の相互作用としくみ 9版	杉山正康 編著	医歯薬出版	2010

・成績評価方法

統合試験による。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			